

「自然先進都市大阪構想」の提案

○本物の水の都・大阪。

かつて淀川の河口に発達し、今も街中をたくさんの川が流れる街、大阪。

晴れた日の朝、淀川の美しい景色を眺めると、なぜか安堵感を覚えます。水辺には野外カフェの様な開放的な空間も増え、人が水辺に集まりだしているのを実感します。

大阪の約 884 万もの人口の生活を支え、ここに暮らす人々の心を豊かにし、産業を支える水をたたえる大阪の川ですが、その水源の多くは大阪ではない所にあります。

そして今、その水源地である奥山域では多くの問題を抱えています。

放置人工林による貯水機能の低下、水源地やそこに生息する希少な野生の動植物の海外資本・個人への流出問題。

私は、大阪に暮らし、毎日の生活を大阪の水に支えられ、この豊かな水を次の世代に引き継がなくてはならない者として、その水源にも責任を持ちたいと思います。

世界の先進国、それを追う発展途上国でテクノロジーや娯楽の競争が続く中、ただ一つ確実に急速に失われていくのは、動植物を含めた自然環境です。環境の世紀といわれる 21 世紀、きっと、自然に生息する動植物がどんな立派な人工の建造物よりも重要視される時が来ます。

しかし、希少な自然を守り、壊された自然を復元するには大変長い時間を要します。100 年後、200 年後の大阪の姿を見越して今、府や関西広域をあげて自然先進都市を目指す事が、現代の子供たちやその次の世代の子供たちが、今の私達と同じように大阪の豊かで安全な水に支えられ安心して暮らせる、本物の「水の都・大阪」であり、世代を超えた「人にやさしい府政」となるのではないのでしょうか。

○大阪で自然先進都市を実現する事の重要性

自然保護活動を通じて、“自然を守る”という事は、私たち人間が一步ひいて、手つかずの場所を増やす事だと知りました。また、他国の環境の歴史について知る中で、この日本で自然先進都市を実現する重要性を感じるようになりました。

日本は島国であるという地理的な要因や、特長のある歴史と日本人の自然観によって、先進国でありながらも、現在、奇跡的に豊かな自然を残す国です。

今の時代、環境の分野ではヨーロッパが先進的であるとされていて、環境問題に関する世界的な施策はヨーロッパから発信されます。しかし、その背景には、ヨーロッパにおける自然破壊の歴史も古いという事実があります。

イギリス・オランダ・スペインなど。ヨーロッパの文明における自然観は“自然は征服するもの”というものでした。彼らは天然の森を切り開き、どんどん開発を進めていきました。その結果、野性動物は絶滅に追いやられ、日本と同じ島国であるイギリスでは、熊は 900 年前に絶滅し、猪も 600 年前に絶滅しました。シカは現在でも生息していますが、その理由は、当時のイギリス人がハンティングの対象として人為的に残した為とされています。

18世紀頃から、西欧諸国は競って大洋にのりだし、大陸を発見しては森を切り開き、原住民族を放逐し、さらに開発を続けました。

当時日本は、1603年に創設された徳川幕府の統治下であり、鎖国制度を敷いていた為、西欧諸国の入植を免れました。

日本には、山を神域化するような“自然優位の自然観”が根付いていました。この日本人の自然観は、もともと大陸に暮らし自然と共生していたネイティブアメリカンや、アボリジニの様な原住民族に通じるものがあります。

島国という地理的要因と、自然観、自国の歴史により、日本は第二次世界大戦後に拡大造林が行われるまで、うまく自然を残したと言えます。

自然環境が何よりも重要視されると思われる21世紀、環境問題に対して施策する際、この“自然優位の自然観”に基づいて間違いなく施策する事が大変重要になると考えられますが、歴史の中で原住民族は放逐され、現在、“自然優位の自然観”を持ち、国家を成しているのは日本だけではないかと思えます。

この大阪で自然先進都市を目指すことが、21世紀に真に求められる都市の姿の実現につながります。

他国の尺度や価値観にとらわれず、自分たちに根付く価値観・自然観に基づいて今、この大阪で、自然先進都市の実現を目指すことが、時代に求められていると感じます。

大阪は、東京をはじめとする日本の都市だけでなく、世界の都市をけん引する役目をもっているのではないのでしょうか。

○自然先進都市大阪の未来像

世界的に水や水源地の奪い合いが起こっている事はよくニュースで報道されています。日本でも北海道ではすでに、水源地が海外資本に買収されている事が問題になっています。さらに最近では、土地に生息する希少の野性動植物を将来的に転売する目的で、水源地では無い土地ですら海外は買い求め始めています。今はまだ、ある事が当たり前のように感じる山や森、川や海が、本当はお金や宝石にも代えられない、生きていく上で最も重要なものであると、私達は知る必要があると思います。

こうした問題に敏感になり、すばやく施策し、大阪・関西の土地を賢く守り、逸早く自然先進都市をめざす事で、無数の命がひしめき合う、にぎやかな大阪・関西となります。

自分の子供を自然豊かな町で育てたいと思う親たちは大阪への移住を希望し、大阪・関西でしか見られない動植物があるとなれば研究機関や研究者も集まります。分散した人がもう一度集まり、関わり合う地域社会を作る事で、環境問題以外の社会問題の解決も期待できるかも知れません。人が集まれば流通も活発になります。

私は現在、飲食店検索サイトを運営する企業に勤めていますが、2010年に社が集計したアンケート結果では、大阪への旅行の目的のトップが「食」という結果でした。

おいしい物のある所に人はあつまります。自然の底力を取り戻した土地の栄養たっぷりの水や土壌に育てられた、おいしくて安全な野菜、植生を取り戻した川や海でとれた天然の貝や魚。

自然先進都市の実現が、結局は都市の財政の問題や経済の問題の解決策にもつながるのではないかと思います。

自然先進都市大阪 具体策 案

自然環境の保護と復元

[放置人工林の間伐・植樹]

- ・ 放置人工林の保水力低下、土壌流出問題の改善策として
- ・ 野性動物の生息地の復元策
- ・ 獣害の根本原因（人工林化による生息域の森の荒廃）の改善策として
- ・ 間伐・植樹用の臨時の雇用を設けることで、雇用問題の緩和につながる。
- ・ 絶滅危惧種の生息地復元による保護策

[より利用の少ない路網、道路、居住区、施設の撤退・撤収]

- ・ 分断された自然域をつなげ、野性動物の生息域を具体的に増やす事で、獣害の根本原因の改善につながる。
- ・ 分散した“人”を再び集結することで、地域での経済を安定させる。
- ・ 分散した“人”が再び集まり関わり合って生活する町を創出する事で、老人の孤独死や、子供虐待などの現代社会の問題の改善にもつながるのでは？

[海外資本や個人による土地所有を原則禁止する]

他国ではほとんどの国が外国人による土地所有を禁止しています。海外資本・個人の土地買収による、貴重な水源地や、希少の動植物の海外流出を厳しく取り締まり、国の自然資源を守る為の緊急の施策。

[残存する天然林・自然林の保護区の増加と監視の強化]

- ・ 密漁、開発などを厳しく取り締まる為のパトロール等を担う「森林保護管」の雇用を設けることで、雇用創出につながる。
- ・ 天然林、自然林の保護区を増加し強化することで、森林機能の回復につながる。

[野性動物への緊急の給餌活動]

- ・ 絶滅危惧種であるツキノワグマの保護策として。生息域の山の中に食料を置いておく等の給餌活動を行った場所では、クマの出没が減った、獣害が軽減された等の例が数多くあります。
- ・ 獣害問題の応急処置として。
- ・ 給餌活動用の臨時の雇用を設けることで、雇用創出につながる。

教育

[環境教育の義務教育化]

自然優位の自然観に基づいた環境教育を。

- ・自然を意識した暮らし方、自然観、都市の在り方
- ・日本と世界の環境問題の現状や課題
- ・日本・世界の環境破壊の歴史 など

[徴農制]

選択制など、民意に沿った形で。

- ・第一次産業への関心を高め、若者の第一次産業従事者を増やす。雇用問題の緩和につながる。
- ・食料自給率UP

より環境負荷の低い農業・林業・漁業の奨励と保護

① 農業

[低農薬有機栽培、無農薬無肥料栽培の奨励]

- ・土壌、水、河川、海の保全につながる。
- ・農産物の付加価値(安全性)があがる。
- ・土壌機能の劣化による、作物の栄養素低下の問題の改善策として。

[より都心に近い場所での農業従事の奨励]

- ・地産地消、コンパクトシティの実現につながる。

[農耕地・農業従事者の“地方・郊外から→より都心に近い場所”への遷移の奨励]

- ・分断された自然域をつなげる為の具体策として。
- ・コンパクトシティの実現策として。
- ・限界集落問題の解決策として。

② 林業

[山のゾーニングによる林業域の限定の奨励]

- ・林業域と自然域をきっちり分ける(ゾーニング)ことで、持続可能な林業を実現する。

③ 漁業

[海洋のゴミ問題に関する施策]

- ・海中の植生、生態系を回復し、海産物の供給の安定を図るための施策

研究

[より環境負荷の低い農業・林業・漁業の研究]

環境負荷をかけないよう配慮した研究方法で行う事が大切。

[野性動物を含めた自然環境の保全・復元の研究]

野性動物への負荷をかけない方法での研究を行う事が大切

[先進の環境教育の研究]

- ・ 自然優位の自然観に基づいた環境教育の確立
- ・ 最新の環境問題の情報の収集と授業への繁栄

[研究機関の確立と後継者の育成]

雇用の創出

[第一次産業従事者の増加の施策]

- ・ 雇用問題、高齢化問題の解決策として。

[放置人工林の復元作業である間伐・植樹用の緊急雇用を設ける]

- ・ 森の貯水機能、土壌の流出問題の解決策
- ・ 野性動物の生息地を復元し、獣害の根本原因である森の荒廃の解決策として。

[自然保護区監視員の設置]

- ・ 密漁・開発の厳重な取り締まりによる天然林・自然林の保護策

[農地ガードマンの設置]

農地・人里へ出没した野性動物を捕殺せず生息地へ追い返す作業を担う。

- ・ 絶滅危惧種であるクマの保護と獣害による農業被害回避

「自然先進都市大阪」実現により期待できる効果

○自然環境の保全、復元効果

破壊による森林機能の低下、野性動植物の絶滅回避、水・土壌・河川・海・大気汚染問題など、その他あらゆる環境問題への逸早い対応ができる。

○“人”が集まる

第一次産業従事者、居住希望者、研究者などの増加により、経済の活性や税収の増加が期待できる。又、観光目的、研究目的の渡航者の増加により更なる経済活性が見込める。

○雇用の創出ができる

第一次産業従事者の増加、森復元作業(放置人工林の間伐・植樹など)用の緊急雇用の創設、自然保護区監視員、農地ガードマンなどの新たな雇用創設による、若い世代の雇用問題、失業率問題の解決につながる。

○生産物の安全性・栄養価が高まり、付加価値が上がる

安全で栄養価の高い農作物、水産物、水などの付加価値が期待できる。

○食料自給率が上がる

食料自給率を上げると共に、化石資源枯渇問題、エネルギー問題への逸早い対応ができる。

○国土が守れる

水源地、野性動植物など、国土とそれに関わる自然環境の海外流出に対する逸早い対応ができる。

○より多くの動植物との共存により、次世代の豊かな生活の確保につながり、真に人にやさしい都市を実現できる。

○環境の世紀である 21 世紀に求められる都市の姿の実現例となる

○関西圏のより強い結びつきが築ける

関西広域連合機能の有効な活用により、重要と供給、財政面などあらゆる面での支え合いを行うことで、地域間の結びつきが強化される。

【提案者】

〒532-0025 大阪市淀川区新北野 2-4-23-508

上田 彩 090-1227-6415